

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

2025年10月19日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学部教授	
氏 名 櫻井 豪人	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	2025年4月1日 ～2025年9月20日

①研究経過について （利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。）	本期間においては、これまでに執筆した幕末明治初期の刊本西洋語対訳単語集に関する論文を著書にまとめることを目標に研究活動を行った。具体的な研究経過は以下の通り。【4月～6月】既発表雑誌論文を整理し、著書の章ごとに単一のWordファイルにまとめた。その際、書式や用語等を整え、記述の足りない箇所は加筆した。また、著書第2章の一部となる新規論文二編を学術誌に投稿し、今年度内に掲載されることが決まった。【7月～9月】研究対象とする刊本単語集の書誌調査を、所蔵機関に事前に申し込んだ上で実地に行った。訪問日と訪問先は以下の通り。【7月】4日：東書文庫、横浜開港資料館。7日：東洋文庫、東大総合図書館、同法学部研究図書室。8日：国文学研究資料館。10日：静嘉堂文庫、東京大学文学部。12日：沼津市明治史料館、蓬左文庫。14日：名古屋大学附属図書館、同教育学部。15日：天理大学附属天理図書館。17日：立教大学図書館、駒澤大学図書館。29日：国立国会図書館東京本館。【8月】1日：鶴見大学図書館。6日：玉川大学図書館、横浜国立大学図書館。12日：国会図書館関西館。13日：福井県文書館、福井市立図書館、石川県立図書館。18日：京都外国語大学附属図書館。19日：大阪府立岸和田高等学校、天理図書館。20日：広島大学図書館、山口大学図書館。21日：九州大学附属図書館。22日：長崎大学附属図書館医学分館、同経済学部分館。23日：佐賀県立図書館。25日：香川大学図書館。26日国際日本文化研究センター。27日：京都市立西京高等学校。【9月】19日：神田外語大学附属図書館。以上、のべ36箇所の所蔵機関において、新規調査資料・再調査資料合わせてのべ280点の伝本の書誌調査を行った。上記の書誌調査を行いながら、その都度、各章に含まれる書誌の記述に加筆修正を施した。【9月】これまで発表した論文に含まれていなかった、『通俗英吉利単語篇』『通俗仏蘭西単語篇』『英吉利単語篇増訳』の著者の経歴に関する記述を新規に執筆した。
②研究成果について （目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。）	著書の本文は9割方できているが、残りの1割程度が未完成である。必要な書誌調査もほぼ終わり、執筆に必要な材料はほとんど揃ったが、50点以上にものぼる図版の準備など、最終的な原稿としてまとめるのにはさらなる時間が必要である。遅くとも今年度中には原稿を完成させ、出版社と協議・契約した上で、来年度秋頃には出版したいと考えている。 現時点でのA5版換算のページ数は以下の通りである。序章「洋学単語集研究序説」27頁。第1章「『類聚紅毛語訳』と『蛮語箋』」91頁。第2章「『改正増補蛮語箋』」127頁。第3章「『三語便覧』」104頁。第4章「『英語箋』」29頁。第5章「『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』と『英仏単語篇注解』」130頁。第6章「『英吉利単語篇』系統単語集の展開」89頁。第7章「二つの『改正増補英語箋』」84頁。補説1「『西洋医言』の諸本と『類聚紅毛語訳』」39頁。補説2「村上英俊の版本書誌」37頁。補説3「『開成所刊行』の朱印と開成所刊行物」11頁。補説4「『英吉利単語篇』系統単語集の書誌」41頁。合計809頁。